

令和3年度事業報告

I 事業概況

松山港のコンテナ貨物取扱量については、新型コロナウイルスの影響による物流の混乱長期化により2年連続の減少となり、令和4年4月時点の速報値で47,238TEU（対前年比99.8%）となりました。

また、平成29年の水深13m岸壁や2基目のガントリークレーンの共用開始をはじめとした松山港の港湾機能整備が着実に進められているところです。

当協議会においては、松山港への集荷促進、既存航路の維持・拡充を図るため、松山港を利用した荷主及び松山港に寄港する国際定期貨物航路を運航する船社に対し、輸送費の一部を補助する「松山港利用促進インセンティブ事業」を実施しました。

さらに、官民一体となった協議会組織の特色を生かし、地元代理店や行政関係者によるポートセールスを実施するとともに、ホームページやパンフレットを活用した広報活動や実務者によるワーキングチーム会議の開催など、幅広い活動に取り組みました。

II 個別事業報告

1 新規航路誘致・貨物集荷促進事業

(1) 「松山港利用促進インセンティブ事業（荷主向け）」の実施

松山港における集荷を促進し、国際定期貨物航路網の維持及び拡充を図ることに より、本県産業の国際化と地域経済の活性化に資するため、松山港を利用する荷主 に対してインセンティブ補助金を交付。

【事業概要】

① 補助対象事業

補助対象期間内に国際定期貨物航路を利用して、コンテナ貨物又は小口混載貨物を松山港で陸揚げ又は船積みする事業

② 補助対象期間

令和3年3月1日～令和4年2月28日

③ 補助の内容（A、Bの併用不可）

A 輸出貨物拡大支援事業

貨物	コンテナ	小口混載
補助対象者	松山港発着の国際定期貨物航路便を利用する荷主	同左
補助対象	松山港利用輸出貨物量の前年度比増加量 ※新規利用加算条件 ・前年度松山港での取扱貨物利用が0TEUであること。 ・過去松山港荷主向けインセンティブ補助金の交付実績がないこと	松山港利用輸出貨物量の前年度比増加量
補助額	増加1TEUにつき15,000円 ・新規加算10,000円/TEU ・リーファー加算20,000/TEU	増加1m ³ 又は1tにつき 2,000円/m ³ (t)
補助上限	一荷主あたり30TEU (リーファー加算5TEU)	一荷主あたり 50m ³ (t)

B 輸入貨物拡大支援事業

貨物	コンテナ	小口混載
補助対象者	松山港発着の国際定期貨物航路便を利用する荷主	同左
補助対象	松山港利用輸入貨物量の前年度比増加量 ※新規利用加算条件 ・前年度松山港での取扱貨物利用が0TEUであること。 ・過去松山港荷主向けインセンティブ補助金の交付実績がないこと	松山港利用輸入貨物量の前年度比増加量
補助額	増加1TEUにつき10,000円 ・新規加算10,000円/TEU ・リーファー加算20,000/TEU	増加1m ³ 又は1tにつき 2,000円/m ³ (t)
補助上限	1荷主あたり30TEU (リーファー加算5TEU)	一荷主あたり 50m ³ (t)

④ 補助実績 27件 5,873千円（昨年度 2,320千円）

※詳細は「松山港利用促進インセンティブ事業（荷主向け）実施結果」のとおり。

(2) 「松山港利用促進インセンティブ事業（船社向け）」の実施

松山港に寄港する国際定期貨物航路網の維持及び拡充を図るため、国際定期貨物航路を運航する船社に対して実入りコンテナ貨物取扱量の前年比以上の増加に応じインセンティブ補助金を交付

【事業概要】

① 補助対象期間

令和3年1月1日～令和3年12月31日

② 補助の内容

対象者	松山港発着の国際定期貨物航路便を運航する船社
補助額	・ベースカーゴ補助：前年実入り取扱量と同規模であれば一律 100,000 円 ※10 の位以下を切り捨てのうえ取扱量を比較する。 ・集荷促進補助：増加 100TEU につき 25,000 円

③ 補助実績 4社 1,250 千円（昨年度 550 千円）

(3) 航路誘致を担当する航路誘致・集荷マネージャーの設置

松山港における効果的な航路誘致及び利用促進を図るため、航路誘致・集荷マネージャーを委嘱し、ポートセールスや日頃の活動の中で、集荷活動を実施。

愛媛エフ・エー・ゼット(株)	アイロット事業部長	二ツ池 毅 氏
日本通運(株)松山支店	三津浜事業所長	安藤 公二 氏
山九(株)四国支店	物流マネージャー	星野 満 氏
伊予商運(株)松山事業所	海運課長	一色 幸子 氏

2 国内ポートセールス推進事業

[個別ポートセールス]

関東地方ポートセールス 8社

近畿地方ポートセールス 7社

[出展]

○第2回 Innovation Expo

会 期：令和3年10月13日（水）～15日（金）

主 催：(公社)日本ロジスティクスシステム協会等

場 所：東京ビッグサイト（東京都）

活動内容：会場内での協議会ブースを設置し松山港のPRを実施

来場者数：17,841人

○松山港ポートセミナー（第2回 Innovation Expo）

開催日：令和3年10月13日（水）15：40～16：10

場 所：第2回 Innovation Expo 会場内で実施

セミナー内容：松山港の紹介（港湾機能、定期航路、インセンティブ制度）

3 海外ポートセールス推進事業

実績なし

4 松山港の広報事業

松山港PRツールの作成・配布

- ・パンフレット（A4判、カラー、8頁）の作成
- ・ポスター、トートバックの作成

5 松山港利用促進協議会ホームページの運営

ホームページを活用した松山港の周知・利用呼びかけの実施

6 緊急時における適切な対応体制の維持

「緊急時対応体制の構築に向けての行動方針」に基づき、関係者が連携・協力して、ガントリークレーンなどの主要設備の故障防止や迅速な点検・修理等の体制を整えるとともに、緊急時において関係者が適切に対応できる体制整備について県港湾部局と連携し取り組んだ。

7 事務局運営

(1) 総会

令和3年7月5日 書面開催

議題：令和2年度事業報告・会計収支報告

令和3年度事業計画（案）・会計収支予算（案） 等

(2) ワーキングチーム会議

令和3年6月10日 WEB会議

内容：令和2年度事業実績、令和3年事業実施方針 等